

リニューアルオープン記念特別展

What's New!

大阪市立美術館 名品珍品大公開!!



《青銅鍍金銀 羽人》
中国・後漢時代・1-2世紀
大阪市立美術館蔵（山口コレクション）

開催概要

会 期：2025年3月1日(土)～3月30日(日)

※初日3/1は午前10時開館

※会期中展示替え有り

開館時間：午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

会 場：大阪市立美術館（天王寺公園内）

休 館 日：月曜日

主 催：大阪市立美術館、毎日新聞社

観 覧 料：一般1,800円（前売・団体1,600円）、高大生1,200円（前売・団体1,000円）

※中学生以下、障がい者手帳などをお持ちの方（介護者1名を含む）は無料（要証明）。

※団体は、20名以上です。

作品件数：約200件

大阪市立美術館
Osaka City Museum of Fine Arts

開催趣旨

大阪市立美術館では、**2025年3月1日にリニューアルオープンすることを記念**し、特別展を開催いたします。

「What's new」という言葉には、久しぶりに会った相手に「お変わりはありませんか」と軽く近況を尋ねる挨拶と、「最新情報／新着情報」の2つの意味があります。この展覧会名には、約2年半に及ぶ休館期間を経て久しぶりにお目にかかる皆様へ、親しみを込めたご挨拶と、リニューアルした最新の姿をお披露目するという2つの意味を込めました。

日本・東洋美術を中心とする大阪市立美術館の所蔵品は、昭和11年（1936）5月1日に開館してから現在に至るまで充実が図られ続け、その数は約8700件にのぼります。本展では、館内の全フロアを特別展会場とし、絵画や書蹟、彫刻、漆工、金工、陶磁など分野ごとに選りすぐりの作品約200件を一堂に展覧します。当館を代表する名品たちに加え、これまであまりご紹介する機会がなかった「珍品」ともいえる作品も織り交ぜ、大阪市立美術館の「変わらぬ魅力と新たな魅力」をお伝えします。大阪市立美術館や作品たちとの再会と新たな出会いをお楽しみください。

本展のみどころ

みどころ① 大阪市立美術館まるわかり

本展をみれば、大阪市立美術館がどんな美術館なのか、どのような作品を所蔵しているのかが分かります。全フロアを会場に、重要文化財6件を含む絵画や書蹟、彫刻、漆工、金工、陶磁など分野ごとに選りすぐりの作品、約200点を出品します。

みどころ② ため息が出るほど美しい展示

国内外の美術品をより良い環境でご覧いただけるよう、展示ケース、照明もリニューアル。作品の魅力を最大限に引き出します。

また、国の登録有形文化財である建物外観を保全する一方、無料ゾーンや公園のグラウンドレベルからお入りいただける新エントランスの新設、カフェやミュージアムショップの開設など、天王寺・阿倍野エリアの新たな都市魅力となる「ひらかれたミュージアム」として活動していきます。

みどころ③ 新たな出会い・魅力の発見

日本で3番目の公立美術館として開館して以来、関西で活躍した先人による寄贈を受けるなど、収蔵品の充実が図られ、現在では約8700件を所蔵しています。

その中から、当館を代表する名品たちに加え、これまであまりご紹介する機会がなかった「珍品」ともいえる知られざる所蔵品も多数ご展示します。

「珍品」たる所以を知れば、その魅力のとりこになるかもしれません。

正面外観 撮影：佐々木香輔



リニューアル概要

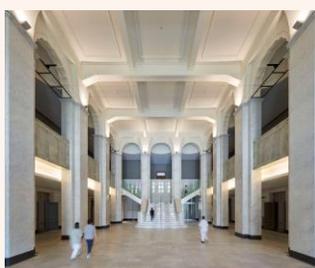
※注記のない画像はイメージです

① 天王寺・阿倍野エリアの新たな都市魅力となる「ひらかれたミュージアム」に

- ・公園のグラウンドレベルでアイコン的な新エントランスを設け、エスカレーターで中央ホールに上がっていただく、「入りやすい美術館」としました。
- ・館内は展示室に入る以外はほぼ「無料ゾーン」としました。また地下展示会室（今後は「天王寺ギャラリー」と呼称）とのアクセスも改善しました。
- ・近代日本庭園の名園である慶沢園（けいたくえん）を臨むことができるカフェやテラス（無料ゾーン）を設けます。



建物西側（新エントランス）
撮影：佐々木香輔



中央ホール
撮影：佐々木香輔



慶沢園側テラス

・新エントランスにミュージアムショップを設けます。

- ・建物3階（中央ホールの上階）にはワークショップ等が開催できるエリア（アトリエ）を、1階にはパブリックスペースとして「じゃおりうむ」（注1）を設けます。中央ホール等と合わせ、「ユニークベニュー」としての活用も期待します。

（注1）「じゃおりうむ」とは、中国語の「交流（jiaoliu）」に、ラテン語で「～な場所、空間」を意味する「-arium」を組み合わせた造語。中国美術や、その影響を受けた日本美術の作品を中心に所蔵していることからの命名。室内には当館の代表的なコレクションの一つである、中国の石仏も常設展示します。



じゃおりうむ



展示室

- ・美術品動線を改善（作品搬出入用エレベーターの増設）し、展示替え時の休館日数を減らすことにより年間300日の開館をめざします。
- ・来館者動線の改善（エレベーターの増設）や、トイレ等アメニティ設備も、バリアフリーに留意しながら一新しました。

② 今日技術・設備を用いて、展示・収蔵環境を向上

- ・収蔵庫の面積を大幅に拡張し、内装、設備を一新しました。
- ・国内外の美術品をより良い環境でご覧いただけるよう、展示ケースや照明等の展示環境を一新しました。公開承認施設（注2）として、文化庁の指導も受けています。
- ・気象や様々な環境の変化にも対応できるよう、空調設備を一新しました。

（注2）「公開承認施設」とは国宝・重要文化財の展示に適した施設として国（文化庁）から承認を受けた施設のこと。

③ 歴史的建築物の価値を高める

- ・創建当時の意匠が再現可能な箇所は、機能、用途を考慮しながら復元しました。

（例：「じゃおりうむ」では、創建当時の自然光による採光方式（トップサイドライト）を復元しました。）

- ・公共の文化施設としてより高度な耐震性能（Is値=0.75）を満たす耐震補強を行いました。

展覧会構成 (展示する分野の紹介)

金工

当館所蔵の金工品には、古代の青銅器や仏教の儀式に用いられた仏具、実用品としても機能した銅鏡や水滴など、中国・日本の紀元前から近代までバラエティ豊かな作品があります。その中から、重要文化財4点をはじめとする名品と「珍品の」数々を、勇壮、典雅、愛らしさ、コミカルなど、作品の醸し出す表情に注目してご紹介します。

What's New

《羽人(うじん)》が広報大使に就任！

当館を代表する名品の一つである《青銅鍍金銀 羽人》。羽人とは中国の仙人の一種で、とがった耳の形に特徴があります。本作は、類品が世界に3点のみという珍品でもあります。

この度、本作品が大阪市立美術館の広報大使に就任いたしました。手を広げて、皆様のご来館を熱烈歓迎します。

《青銅鍍金銀 羽人》
中国・後漢時代・1-2世紀
大阪市立美術館蔵 (山口コレクション)



彫刻

当館では、我が国屈指の質と量をほこる中国の仏像を所蔵しています。そのなかには、北魏(386-535)を中心とする造像年が記された作例や、「白玉像」と呼ばれる白大理石を材料とした貴重な作例、雲岡石窟や天龍山石窟、龍門石窟といった中国を代表する石窟から将来された仏像などがあり、世界的なコレクションとして著名です。



《石造 菩薩交脚像龕》中国・北魏・5世紀後半
大阪市立美術館蔵 (山口コレクション)

大阪市立美術館まるわかり

美術の「正統」から 地域色豊かな作品まで

当館の金工・彫刻分野の特色の一つとして、美術の正統として知られる作品のほかに、中国の地域色のあるバラエティ豊かな作品を多く含むことが挙げられます。後者は主に、大阪船場で生まれた財界人・山口謙四郎氏(1886-1957)の蒐集による「山口コレクション」の作品です。当時の中国の都や大都市で作られた仏像や金工品のほか、どこかひなびた味のある美の世界を好んだコレクターの好みを反映しています。

日本の絵画

日本の絵画の所蔵作品には、中近世の色鮮やかな金地屏風から、掛軸、絵巻、そして色刷版画まで、日本絵画のメインストリームを追うことのできる名品の数々のほか、大阪市立美術館の特色となっている近代日本画や洋画のコレクションまで、幅広い作品があります。本展では所蔵する日本の絵画の全体像を示すべく、4つの展示室にわたって展観します。

What's New

美しい展示

屏風を魅せる

照明のリニューアルにより、屏風など広い画面の作品を均一に照らすことが可能になりました。色彩は鮮やかに、金箔もきらめいて見えるほか、細部の描写までじっくりご覧いただけます。



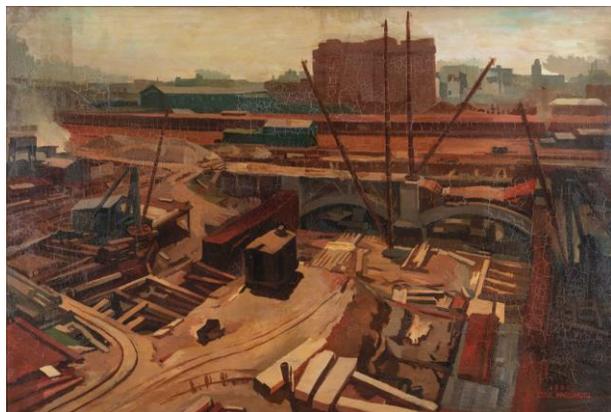
《邸内遊楽図》（部分）
江戸時代・17世紀前半 大阪市立美術館蔵

大阪市立美術館まるわかり

住友コレクションと大阪の洋画

昭和18年（1943）、当館の所蔵品の充実を図るために住友家からの支援を受けて開催された「関西邦画展覧会」。出品された関西の日本画壇の重鎮20人による新作は、「住友コレクション」として当館を特徴づける作品群となっています。

また、昭和11年（1936）の開館以来、主要な美術団体展の会場として親しまれてきたことを背景に、とくに大阪、関西にゆかりある作家、その遺族から多くの作品寄贈を受けています。静かに成長を続ける洋画コレクションも、「大阪市立美術館らしさ」の一つです。



松本 鋭次《工事場風景（地下鉄工事）》
昭和7年（1932） 大阪市立美術館蔵（松本ひろ氏寄贈）



上村松園《晩秋》 昭和18年（1943）
大阪市立美術館蔵（住友コレクション）

中国書画

東洋紡績株式会社の社長を務めた阿部房次郎氏（1868-1937）が蒐集し、ご子息の孝次郎氏から寄贈された「阿部コレクション」。中国絵画史を語るに欠かせない名品が多く含まれ、大阪市立美術館の名を世界に知らしめる名コレクションですが、中国書画の所蔵品はこれだけではありません。

本展では、これまで展示の機会があまりなかった作品も加えて、当館の中国書画の世界に誘います。

What's New

新たな出会い

5mガラスの特大展示ケース

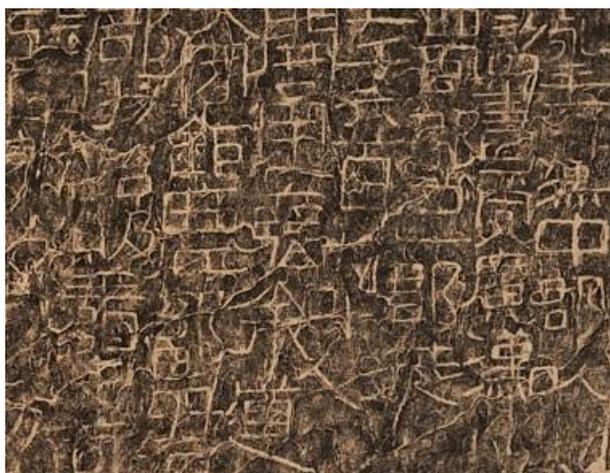
文人画家・謝時臣（しゃじしん）の名が冠せられた作品は、本紙だけで約3.5mもあります。今回の改修によって5mガラスの特大展示ケースができたことで初めて展示可能となりました。電動で昇降するバトンに吊り下げて展示します。

謝時臣 左：《湖堤春曉図》右：《巫峡雲濤図》
中国・明～清時代・17世紀 大阪市立美術館蔵



書蹟（拓本）

中国書蹟（拓本）の分野の所蔵品には、商周代から唐代に至る金文・墓碑・墓誌・造像銘など多彩な内容の拓本が収蔵され、なかでも漢の碑や摩崖、六朝の墓誌などが豊富です。大阪出身で師古齋（しこさい）の齋号（書齋の名）をもつ岡村蓉二郎氏（1910-1991）が蒐集した中国金石拓本 400件からなる「師古齋コレクション」がその中心となっています。



《開通褒斜道刻石》（部分） 後漢時代・永和9年（66）
大阪市立美術館蔵（師古齋コレクション）

祝・リニューアル

竣工記念の石刻

本展が大規模改修後のリニューアルオープン記念していることに掛けて、書蹟（拓本）の分野からは道路などのインフラや、孔子廟などの建築工事の竣工を記念した石刻を展示します。

いつの時代も竣工を喜び、記念したいという気持ちは変わりません。

仏教絵画・経典

仏像や仏画、仏具として制作された金工作品など仏教美術が豊富なことも当館の所蔵品の特徴の一つです。とくに大阪で衆議院議員・弁護士として活躍した田万清臣氏（1892-1979）が、明子夫人とともに蒐集した「田万コレクション」には、仏画や経典をはじめとした仏教美術の貴重な作品が多く含まれています。

What's New

美しい展示

間近で細部までご覧あれ

一部の壁面ケースの背面の壁は可動式で、ガラスの近くまでせり出してくる仕掛けとしました。そのため、曼荼羅（まんだら）のように細かく描かれている作品でも、すぐ近くで詳細にご覧いただくことができるようになりました。



《荼吉尼天曼荼羅図》（部分） 室町時代・15世紀
大阪市立美術館蔵（田万コレクション）

考古

現在ではあまり知られていませんが、かつて当館では考古隊を組織して大阪府下の遺跡の発掘調査等を行っていました。昭和34年（1959）に高石町（当時）と共同で行った、富木車塚古墳の発掘調査もその一つです。このような活動を基礎として、寄贈などを通して土器や石器、金属器等の考古遺物の収集が続けられてきました。昭和35年に大阪市立博物館（現・大阪歴史博物館）が開館したことにより、考古分野の調査活動の中心は同館に移りましたが、現在でも貴重な考古資料を多く所蔵しています。



新たな出会い！？

知る人ぞ知る考古コレクション

考古分野の展示をする機会が減ってしまった当館。しかし所蔵資料の調査の依頼を受けたり、他館へ貸し出したりすることは少なくなく、専門家の間では重要視されている資料も所蔵しています。

重要文化財《青銅 山雲双鸞文鏡》奈良市藤原町横井廃寺出土
飛鳥-奈良時代・7-8世紀 大阪市立美術館蔵（田万コレクション）

漆工

漆工分野の所蔵品の中核を形成する「カザールコレクション」は、実業家であったスイス人U.A.カザール氏（Ugo Alfonso Casal, 1888-1964）が、明治末から昭和中頃にかけて蒐集した、日本、中国および東南アジアの漆工品およそ4000件からなる一大コレクションです。近年、江戸後期から明治期における工芸の人気に伴い、カザールコレクションにも熱い視線が注がれています。今では国内でも希少となった作例も含め、根付や印籠などの装身具は国内外コレクター垂涎の的であり、豪華な蒔絵をほどこした調度の一群は、見ごたえ十分です。

祝・リニューアル

祝杯！ 再開館を彩る華やかな酒器たち

リニューアルを記念し、「祝杯」をテーマとして、カザールコレクションを中心に飲食器具の数々をご鑑賞いただきます。目にも鮮やかな朱色が印象的な杯や華やかな蒔絵をほどこした酒器をぜひお楽しみください。



《魚介蒔絵杯》（3枚のうち） 銘 羊遊齋
江戸-明治時代・19世紀
大阪市立美術館蔵（カザールコレクション）

陶磁

当館所蔵の陶磁器には、中国や日本を中心として、朝鮮半島、東南アジアからヨーロッパまで古今東西の作品があります。そのなかでも、ともに平成23年（2011）に受贈した鍋島焼118件からなる「田原コレクション」と、富本憲吉作品100件からなる「辻本コレクション」は日本陶磁の二枚看板となっています。本展では、これらの作品を中心にご紹介します。



《青磁染付 青海波宝尽くし文皿》 鍋島焼
江戸時代・18世紀 大阪市立美術館蔵（田原コレクション）

祝・リニューアル

おもてなしのうつわ

一言で「おもてなし」といってもその規模や格式は様々です。江戸時代の最高級の磁器である鍋島焼を中心に、さまざまなおもてなしの場面で用いられた近世の日本のやきものを展示します。

リニューアルを記念する祝宴にご招待！

What's New 作品にやさしい、安全な展示を

今回の改修工事により、免震展示ケースを3カ所設置しました。大きな地震にそなえ、物理的な衝撃に弱い陶磁器も安心して展示できる環境が整いました。

その他の主な出品作品



《青銅饗養文罍》
中国・殷（商）時代・紀元前12-11世紀
大阪市立美術館蔵（山口コレクション）



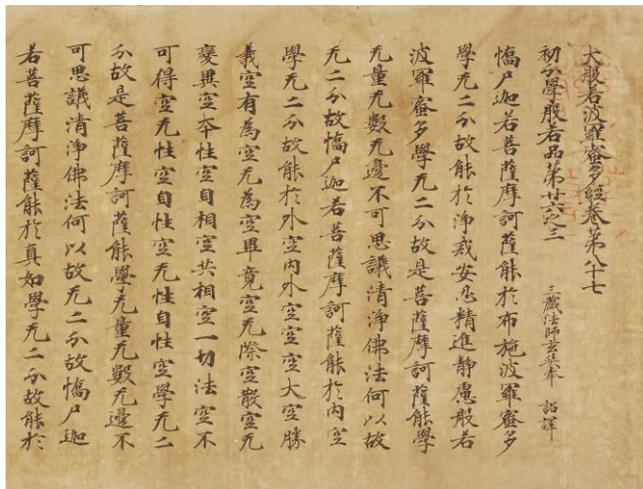
重要文化財《銅 湯瓶》 鎌倉時代・13-14世紀
大阪市立美術館蔵（田万コレクション）



《石造菩薩立像頭部》 [中国河南省・龍門石窟賓陽中洞将来]
中国・北魏・6世紀 大阪市立美術館蔵（江口治郎氏寄贈）



富本憲吉《色絵 赤更紗模様皿》 昭和16年（1941）
大阪市立美術館蔵（辻本コレクション）



重要美術品 《大般若經（藥師寺經）》（部分）
奈良時代・8世紀 大阪市立美術館蔵（田万コレクション）



勝部如春斎《小袖屏風虫干図巻》(部分)
江戸時代・18世紀 大阪市立美術館蔵



長谷川等伯《鳥巢図屏風》
桃山・慶長12年(1607) 大阪市立美術館蔵



阮元《行書七言聯》
中国・清時代・19世紀 大阪市立美術館蔵



佐伯 祐三《教会》
大正13年(1924) 大阪市立美術館蔵



鄭思肖《墨蘭圖》 中国・元時代・大徳10年(1306)
大阪市立美術館蔵(阿部コレクション)



米友仁《遠岫晴雲圖》
中国・南宋・紹興4年(1134)
大阪市立美術館蔵(阿部コレクション)

《 報道関係者お問い合わせ先 》

大阪市立美術館 名品珍品大公開!! 広報事務局(株式会社TMオフィス内)担当: 馬場・永井・西坂

TEL: 090-6065-0063 (馬場) 090-5667-3041 (永井)

テレフォンセンター: 050-1807-2919 FAX: 06-6231-4440 E-MAIL: osaka-art-museum@tm-office.co.jp